

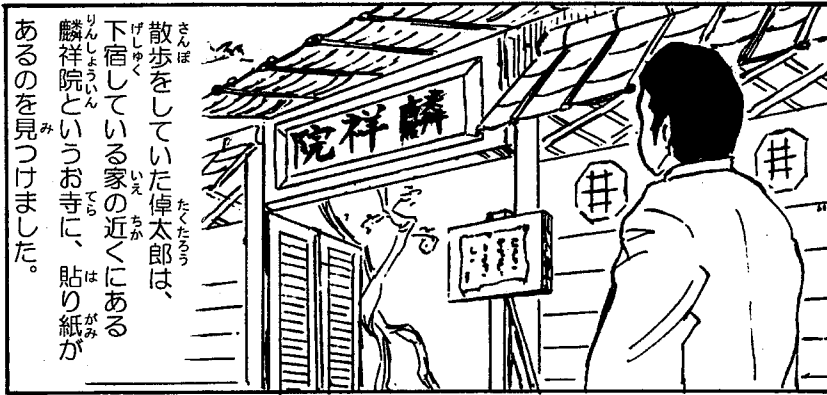


田中周刻記

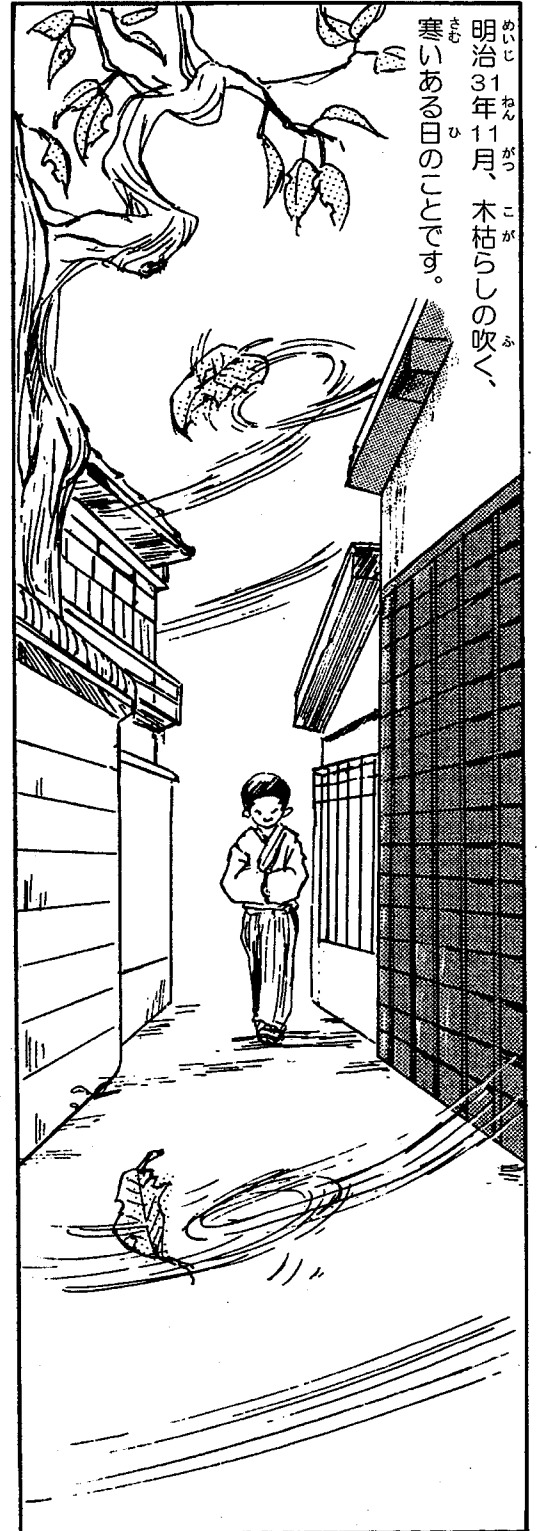
でんちゅうちょうこくき

ぜんそう にしやまかざん おし
第三話 ～禅僧・西山禾山の教え～

Takashi
作 ©いとうたかし



散歩をしていた俣太郎は、
下宿している家の近くにある
麟祥院というお寺に、貼り紙が
あるのを見つけました。

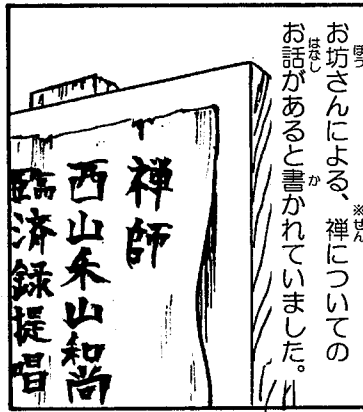


明治31年11月、木枯らしの吹く、
寒いある日のことです。



芸術のヒントに
ならないかな...

禅か...



お坊さんの、禅についての
お話があると書かれています。



お寺の中には、
大勢の人々が
集まり、
お坊さんの話を
聞いていました。

※禅…座禅をして心を集中させ、自分自身を見きわめ、真の姿を知る仏教。

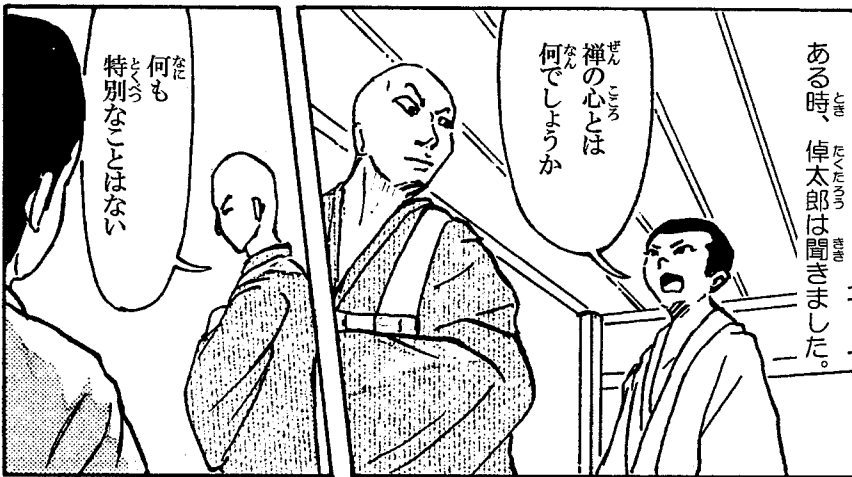


「禾山笑」

後に、倅太郎はこの西山禾山をモデルにした作品を作りました。大笑いしている仕草が、禾山の太らかな人柄をよく表しています。



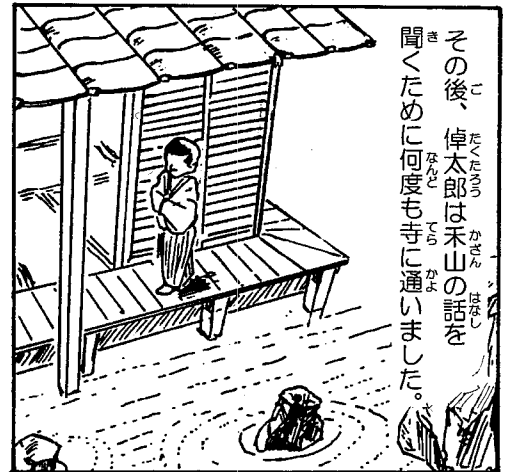
話しているのは、西山禾山というお坊さんです。誰にでもわかりやすく、禅の話をしていました。



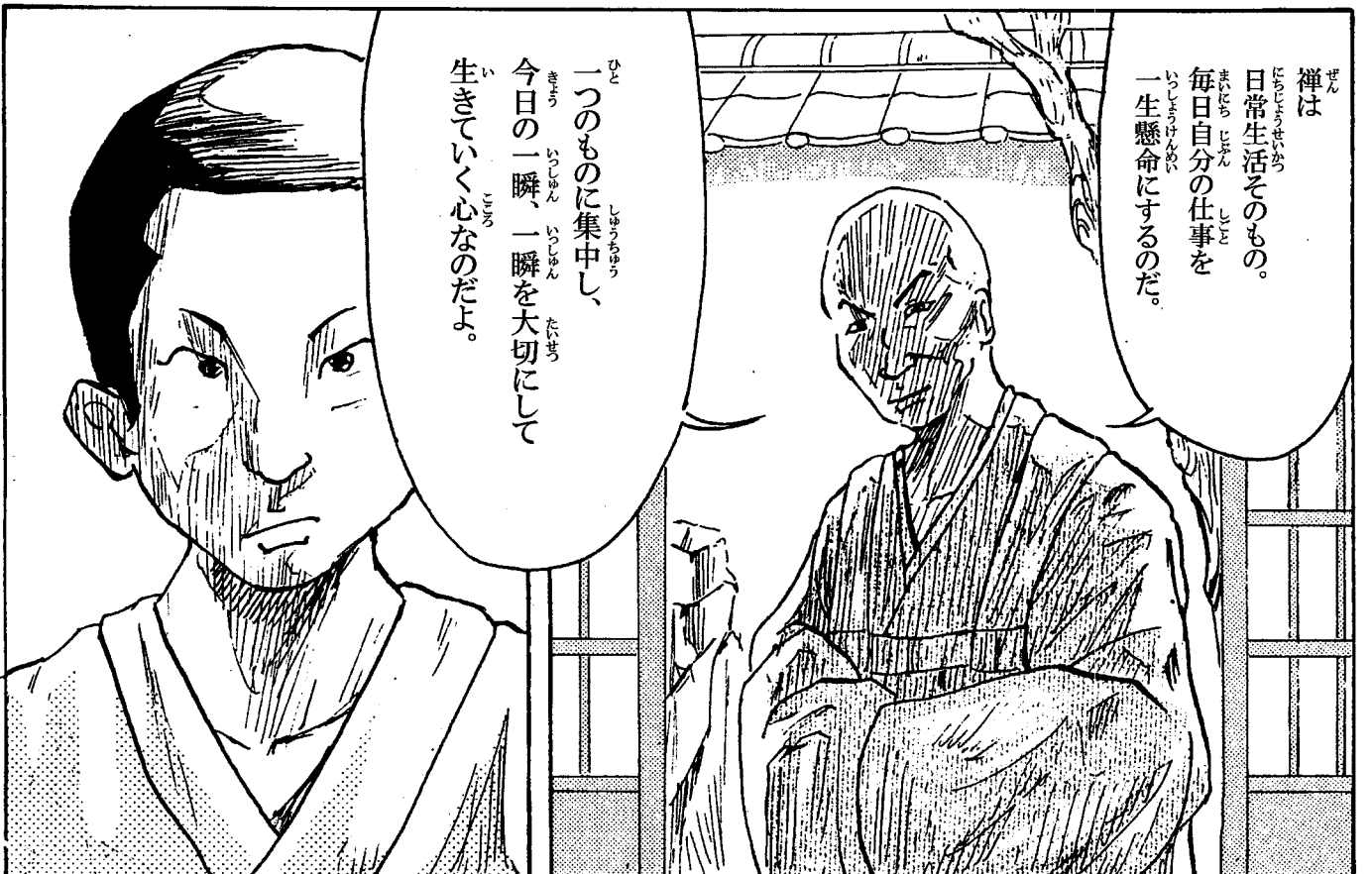
何も特別なことはない

禅の心とは何でしょうか

ある時、倅太郎は聞きました。



その後、倅太郎は禾山の話を知ったために何度も寺に通いました。



禅は日常生活そのもの。毎日自分の仕事を一生懸命にするのだ。

ひとつのものに集中し、今日の一瞬、一瞬を大切に生きていく心なのだよ。